

事業報告

第2期NEC森の人づくり講座／06年初夏篇

開催日：2006年6月16日～19日

1995年より長きに渡ってNECにご支援いただき、2006年度も“NEC森の人づくり講座”を行うことが出来ました。

昨年度から“第2期NEC森の人づくり講座”として新しいスタートを迎えたこの講座が、やっと本来の形である前期生／後期生合同の活動となりました。

- ・ 真正面から「森林問題」への具体的解決を試みる。＝何はともあれ実践してみる。
- ・ 前期は受講生として参加、後期は前期修了生＝後期生として次期受講生へ「伝える」ことで「人の環づくり」をおこなう。
- ・ 地球環境問題の課題としての森林問題を、前期後期で季節の違うアプローチとして体験する。

このねらいを十分に感じ実践していける人材、「第2期NEC森の人づくり講座」修了生をはじめて輩出する今回の講座。オークヴィレッジ／森林たくみ塾とキープ・フォレスターズスクールの2コースに分かれてどのように開催されたか、それぞれの4日間を、以下に報告いたします。

プログラム紹介

オークヴィレッジ／森林たくみ塾 コース

場所

岐阜県高山市清見町

●講座のねらい

- 1 1期生：「自分たちが講座で得たもの、学んだもの」を、1 2期生に、「いかに伝えられるか」
- 1 2期生：環境問題の解決のための「具体的行動のひとつ」として「森の手入れを理解する」

●講座中に伝えたいこと

- ① 問題の解決には、考えるだけでなく具体的な行動が必要
- ② 地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定機能への期待感
- ③ その機能を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない
- ④ 一本一本の木が元気になることで森全体の機能が高まる
- ⑤ 一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す
- ⑥ 人の環＝人を束ねる仕掛けづくり（ネットワーク）
- ⑦ 森の手入れをおこなうにあたって、道具の的確な使用法と安全な作業について理解する

●そのために大切にしたいこと

- ① 森での活動を主軸とする
- ② 森づくり活動は、モノづくりと結びつくことでより意義が深まる
- ③ 体を使って実体験する（頭でっかちにならない！）
- ④ 何事もやってみる（やらなきゃ何も進まない！）

●プログラム実施結果

第1日目／6月16日(金)

- 13:30 受付開始
- 14:00 開講式／インフォメーション
- 15:00 アイスブレイク
- 15:25 実技「NECの森^注を見に行く」 (注：このプログラムで活動している森を、私達はこう呼んでいます。)
- 17:00 意見交換「なぜ森の手入れをするのか」
- 18:00 小講義「森の手入れの必要性」
- 18:50 夕食
- 19:00 「森の人」との出会い
- 21:00 終了

第2日目／6月17日(土)

- 08:00 朝食
- 09:10 小講義「平成17年度林業白書」
- 10:15 小講義「森林ボランティアのもつ力」
- 10:35 実技 1 1期生：「私たちが伝えられることは？」
1 2期生：「まずは安全作業から」
- 12:00 昼食
- 13:00 実技「森づくり事始め」
- 16:30 ふり返り「やってみてどうだったか」
- 18:30 情報交換会
- 21:00 終了

第3日目／6月18日(日)

- 08:00 朝食
- 09:00 引継ぎの儀
- 10:00 小講義「森づくり／計画を持って事に当たる」
- 11:00 実技「森づくり事始め／計画を立てる」
- 12:00 昼食
- 13:00 実技「森づくり実践編」
- 14:15 小講義「人と森とのつきあい方」
- 14:30 ふり返り
- 16:30 実技「森のモノづくり」
- 18:30 夕食
- 19:30 実技「森のモノづくり」延長戦
- 21:00 座談会「スタッフを囲んで」

第4日目／12月19日(月)

- 08:00 朝食
- 09:15 小講義「人の環づくり」
- 10:00 見学「オークヴィレッジ・ショールーム」
- 11:30 ふり返り
- 12:00 昼食
- 13:30 全体ふり返り
- 14:50 12期生集合写真
- 15:00 終了／解散



1日目：11期生・12期生 合同活動

昨年の12月に二期制となって、はじめて修了生が誕生する今回は、深夜に合流する者が2名もいたりしたが、なんとか11期生12名（本来16名のところ体調不良などで4名欠席）12期生10名の計22名が、

もりびと森人を目指して高山市清見町へ全国から集まった。伝えることがいっぱい11期生、どんなことが学べるのだろうと期待いっぱい（ちょっと不安げでもあるが）の12期生。異様な程盛り上がっている11期生のパワーに、圧倒された感じはあるが、受付を済ませていざNEC森の人づくり講座開始。

開講式

今回は、森林たくみ塾 佃（以下、佃）から受講生へのメッセージで始まった。

ネームスによるアイスブレイクによって、少し互いのことを知った受講生達は少しずつうち解け始めたようだ。

実技「NECの森を見に行く」

〈NECの森について〉：今回の活動地の森を、私達の間では「NECの森」と呼んでいます。

11期生にとっては昨年の雪深い冬の手入れ跡を実感できる瞬間。切り口の高さを目の当たりにして、作業当日の積雪量に驚きながらも、自分達が計画して行った作業の成果を味わった。「思ったよりも込み合っている...」「伐り過ぎと思う位がすっきりしていいかも」など、意見が飛び交った。

一方12期生ははじめて森に入る人がいるなど、まずは森を体験することから始まった。「森の中って涼しい」「色々楽しめる」など。何より、人が集まることでどんなことが出来るのか、「可能性」の一端を感じられたようだ。

意見交換「なぜ森の手入れをするのか」

森を見てきた後の分かち合いで、森の手入れということに対しての共通認識が不足していることが見えてきた。森林初体験の12期生はもとより11期生の中にも、まだ未整理なところがあるようだ。そこであらためて、森という言葉のイメージ、手入れの必要性、樹に対する心情などそれぞれの思いを素直に出し合うことから始めることにした。その中からこの講座期間中の森についての共通認識が出来上がった。

「自然度：原生林>天然林≒二次林>人工林」

「今回の活動地は広葉樹の二次林」

「日本の森は人が手入れをしないと危機的な状況になる」

スライドレクチャー「森の手入れの必要性」

森についての共通認識がある程度固まってきたところで一般的に言われている森の定義や、どうして手入れが必要かなどについて佃より小講義。色々な立場や見方によって解釈の方法が分かれる事などを知った上で、NECの森と称している場所がどんなところなのか、手をいれるべきなのかどうかなど、データを示しながら動機付けした。

自己紹介「森の人との出会い」

1人1分のプレゼンタイム。11期生はこの半年間で得たもの、12期生は講座への期待などを発表した。皆「慣れてないので...」や「うまくいえませんが...」の前置きのわりに、話し始めると止まらない！1分では話足りない人ばかり。中には時間ぴったりの人もいてどよめきも起きたりもした。小道具として紙芝居・制作物・発表シートなどそれぞれ工夫したものがあつた。

※深夜到着組（11期生2名）が無事合流した。



2日目：一部11期生・12期生 別れての活動

今回も朝一番は体操から。すがすがしい晴天の下、恒例となった「アラムシ体操」の伝授となった。

また、「森の達人 川尻さん」が本日からゲスト参加です。

11期生&12期生

小講義「平成17年度林業白書」

川尻さんより林業白書なども使いながら、昔と今の森林や里山利用、林業政策面など、多岐に渡って話してもらい、受講生の意識も高まった。

スライドレクチャー「森林ボランティアのもつ力」

川尻さんの話を受けて佃から、林業のプロが行う仕事とは違う視点で、アマチュアがボランティアとして行う森づくり活動の例を活動当初と現在のスライド等を利用して紹介した。

12期生

実技「まずは安全作業から」

午後から11期生と作業をするために、森で安全に作業するための道具の使い方や安全に対する意識付けを行った。意外に枝打ち用ノコギリを使用したことがある人がいることには驚いたが、他人にも使用方法を教えられるよう、コツとなることなどの伝授を行った。また、危険予知トレーニングとして、危険なシーンを再現して実地で危険個所の指摘をしてもらうなど、KYTシートで行うことを実際の場面でより明確に認識してもらった。その後、実際に自分達で樹を伐る（森を手入れする）と言うことはどんなことか、各々ノコギリと剪定鋏を持って体験した。

11期生

実技「私たちが伝えられることは？」

昨年雪の中で実際に自分達が手入れした森に入りながら、何を伝えられるのか？午後からは12期生を弟子として自分達が伝える側に立つ「親方修行」。それに向けて12期生にプレゼンするためのシートを作った。

実技「森づくり始め」

11期生：親方修行 / 12期生：親方に弟子入り

4つの班に別れた親方達（11期生）のプレゼンをみて、どの班に入るのか選択を行った12期生達。どの班も平均的に人数が別れそれぞれのコンセプトを提示した「親方」について下刈り・除伐・枝払いなど、森づくりの実作業を行った。

11期生&12期生

ふり返り「やってみてどうだった？」

それぞれが思い入れたっぷりの森づくりをおこなったことで、意見や反省するところが一杯出てきた。

全体として「切ることに結果を見て納得できた」「更なる手入れを計画したい」というように認識は進んだようだが、「樹種がわからない木をむやみに切りたくない」「出来れば切らずに放っておきたい」という意見もあった。

さらに12期生から11期生へのフィードバックとして「最初の説明はわからなかったが、実際動いてみたらよくわかった」「虫とか森の豆知識を教えてもらったから楽しく仕事が出来た」「考えて作業したから応用力がついた」などがあつた。

11期生は「もう少し結果を考えた計画を立てなくては」「もっといろいろ森について教えてあげられるとよかった」など、反省点をあげていた。

このように、次の活動につながる貴重な経験が出来た。

「情報交換会／交流の場」

受講生&スタッフが互いのことを、美味しい料理を味わいながら語り合う場。特に今回の講座に向けて11期生が行ったオーク・キープ合同プレミーティングの報告ではかなりの盛り上がり……。さらに翌朝の引き継ぎの儀に向けての打ち合わせも忘れずに行なわれたようで……。



3日目：11期生 修了 / 12期生のみ活動

11期生&12期生

引き継ぎの儀

この活動が終わったら11期生は講座終了。この引き継ぎの儀に懸けるエネルギーも相当なものでした。

閑話休題。

先攻?第11期生。昨冬の修了生達に影響されてか、12期生達に送る自作の歌を用意してきました。「わ～話輪環和笑～」という12期生への応援歌!?昨年からの思いのこもった歌でした。

後攻の12期生は、11期生それぞれに関するクイズ(賞品は似顔絵)を出題し、だれのことを言っているか当てるゲームを行った。すぐにだれのことかわかるもの、ちょっと考えないといけないもの等あったが、無事に全員のもとに収まった。

ここから12期生のみ

小講義「森づくり/計画を持って事にあたる」

これまで11期生と共に体験したことを経験として、ここから仕切り直し。自分達の森づくりを目指すために、森をデザインするとはどういうことか森の機能など、森づくりについて基本的なことから学んだ。

グループワーク「森づくり事始め/計画をたてる」

デザインの仕方を学んだら、行動に移すための計画づくり。侃々諤々の議論の末、目指す森の形が決まった。それに基づいて森の調査を行い、将来の森を予想しての施行計画もまとまった。

実技「森づくり実践編」

いよいよ自分達の計画した森づくり開始。理想の森づくりに向けて、作業は進んだが、作業量の見間違いがあり、中途半端になったところも少し見受けられた。しかし、作業の成果は、樹冠が空いて、陽光の通り道が出来るなど目に見える変化があった。

ふり返り「森づくり実践編」

自分達の森がどうなっていくのか、結果が出るのは数年後。森にとって良い活動が出来たのではないかと信じている・・・。

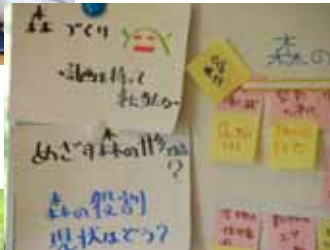
実技「森のモノづくり」(森の資源を活用する)

「森づくり」で得ることのできた栗の木を、丸太→鉋割り→割り板→カンナがけ→板材への流れを体験したあと、自分でつくった板材を使ってモノづくり。バターナイフ・箸・スプーン・おもちゃなどそれぞれ思い思いのモノが出来上がった。

座談会「スタッフを囲んで」

もう最後の夜、少し疲れが出てきた感じはありますが、熱い話で盛り上がっていました。

「クロモジ茶に感動した」「純粹に楽しかった」から「素人が森の作業に入ることに否定的だったが、出来ることもあるんだと実感できた」「体験することでわかる森の姿があるから、それを伝えたい」などの意見が出されました。反面、ボランティアの森への取り組みについて「責任感がない、安全面が不安、継続性がない」といった問題点の指摘もありました。それに対しても、「みんなで共通のベクトルに向い、出来ることをそれぞれが行うことが大切」との決意とも取れる意見もありました。





4日目：12期生 修了

小講義「人の環づくり」

ここまで溜まった疲れをほぐすため、まずは「白菜漬け」ストレッチからスタート。心身共にリフレッシュしてから「人の環づくり」の講義がスタート。ネットワークづくりは、仕掛け=事業計画づくりであることなどを改めて解説しました。

オークヴィレッジ探訪

森林資源を有効に活用する現場としてオークヴィレッジを見学しました。木でつくられた製品たちをみながら、森をと人とのつながりを、実感をもってたっぷりと味わいました。

人のふり返し／腑に落とす

駆け抜けてきた、この4日間を1人になって振り返る時間。色々なことが思い出されます。また、次回13期生に向けて自分は何が伝えられるのかじっくりと考えた。この時間だけで結論が出るものではないが次回の講座に向けて考えるきっかけにはなったようでした。

全体ふり返し

個人ふり返りで得たもの、気付いたものを互いに発表することで、ゆっくりとした時間の中で分かち合うことができました。

12期生はこの講座で得たことをこれから様々な場面で思い出し、「腑に落ちる」体験をたくさんして下さい。半年後に11期生から受け継いだものを自分達のものとして13期生に伝えてられるようになって帰ってきてくれることを期待しています。

11期生は、第2期NEC森の人づくり講座修了生として、まずは実践です。「腑に落ちる」体験をたくさんしてってください。それぞれの活躍に期待しています。



【11期生 & 12期生全員集合】

←【12期生 集合】

「みなさん、お疲れさまでした。」

オークヴィレッジ／森林たくみ塾 Aコース講座全体ふり返りときの受講生の声です。

☆受講生の声

- ・環境に詳しくなかったから最初不安だった。しかし活動してみて「森が好き」という気持ちは変わらなかった。モノづくりの方面で環境と関わって行きたい。
- ・学校教育にもモノと人を繋ぐカリキュラムが必要だと思った。
- ・体験してみないとわからないことがたくさんある。そのすばらしさを他の人と共有したい。環境について自分と向き合えた。
- ・環境問題へ知識や危機感はあるけども行動できなかったが、具体的な行動がとれそう。人に伝えることから始めよう。それが改善に繋がっていく。それぞれでも目的は一緒。
- ・今まで参加した環境活動では理解できなかった部分が解決できた。自分が関わっていける森を見つけ、仲間とのつながりを大切にしていきたい。
- ・森のパワーに気づいた。「素直にさせてくれる」「わくわくドキドキさせてくれる」「優しくしてくれる」建築やデザインの分野で環境に対して考えて行きたい。
- ・自分の中に大きな変化が感じられた。人の考えやアピールの仕方を参考にして自分を広げて行きたい。
- ・11期の森に対する愛着にあこがれた。理想の森像は未だにわからないが、愛着と責任を持って、ここでの経験を周囲に広げて行きたい。
- ・知識はあるつもりだったが、何が出来るかわからなかった。ここで多くの考えと実践に触れ自分の考えが深まった。このつながりを大切にしていきたい。
- ・自分なりに森の将来を考えた後、早く原生林に戻すため手を入れるのが理想。だが、まだ迷い中。NECの森を12期でどうして行くのか話し合えなかったのが残念。でも楽しく、短かった。

プログラム紹介

キープ・フォレスターズスクール コース

場所

山梨県北杜市高根町

●研修のねらい

自分なりの言葉で「環境教育」について人に話せるようになる
自分の中の「小さな一歩」を踏み出すきっかけをつかむ
全国の仲間とのネットワークを作ること
あなた自身のねらいを達成すること

●そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと（まずは、体験することから）
お互いから学ぶこと（相互啓発、相互学習、みんなが先生）
楽しみながら学ぶこと（あそび心で！）
失敗から学ぶこと（失敗をおそれないで）

第1部 「森と人と出会う」

●第1日目 6月16日（金）

14:00 受付開始

14:30 開講式／オリエンテーション

15:00 講座のウォーミングアップ
仲間集め／ひらがなシャッフル

15:45 環境教育プログラムの体験
人間間違い探し／森の宝物探し／森の美術館

16:55 休憩

17:10 **12期生** 講義1：環境教育概論

環境教育と聞いて思い浮かぶ活動は？／環境教育の扱う領域／環境教育とは？
環境問題はなぜおこる？

11期生 実習1：翌日の環境教育プログラムにむけての準備

05年冬に実施したグループでプログラム実施の下見、準備

18:00 夕食

19:20 目的の共有化・自己紹介
3ワード自己紹介／スライドプログラム「キープ協会とは」

20:30 ログブック記入

20:45 終了

●第2日目 6月17日（土）

07:00 **12期生** 環境教育プログラムの体験②「説明型・やりとり型」

モミの香り／ササ笛／シカの食痕&角／ササのミシン目／牧草地&ジャージー牛

11期生 実習1：翌日の環境教育プログラムにむけての準備の続き

08:00 朝食

09:15 実習：環境教育プログラムの実施（11期生）&体験（12期生）
擬音祭り／色探し／森のあいいうえお／感想を言い合う

10:40 休憩

10:55 講義：インタープリテーション概論
プログラムで伝えたいことを出し合う／IPとは？／IPが伝えること／IPの型
プログラムとは？／プログラムデザイン／IPに必要な3つの力

12:00 昼食

第2部 「森を身体で考える」

- 13:30 「森を身体で考える」①
「1本の樹」上映/地蔵倒し/道具の説明/森林管理作業（グループで1本の木を切る）
- 18:10 夕食
- 19:30 ヤマネの部屋
ヤマネミュージアム館長湊秋作の生き様（虫好きこども時代/学校の先生/ヤマネ研究/たんぼ）
- 20:30 終了・ログブック記入

●第3日目 6月18日(日)

- 08:00 朝食
- 09:15 森を身体で考える②（森林管理作業）
ファイヤーブレイスの柵作り/堆肥場兼ネズミの観察装置作成/残っている木の伐採・運搬
アプローチ道の木の間伐
- 12:10 昼食
- 13:30 全体でのフィリップボード・ディスカッション
今の気持ちを一言で、ここまでで1番印象に残ったこと
- 14:10 11期生クロージング
今の自分が大切にしている・これから大切にしたい言葉&12期生へメッセージ&記念撮影
「できない理由を探すのではなくできる可能性を見つけていきたい」「わたくし」「FEERING」「光」
「まつ」「遠回り道の宝物」「そのまま」「伝える」「ノージョークノーハッピーで一生懸命生きる」
「続けること」「心のアンテナ」「FUNN」「忙しい→大変」「伝える」「楽しむ」「積極一貫」
- 15:00 休憩

★第3部 「未来を見ずえる」

★★★ ここから 12期生のみ★★★

- 15:30 講義：安全対策
ケガの状況/安全対策とは/時間軸に沿った安全対策/危険予知トレーニング
指導者によって異なる安全対策の視点/まとめ/ファーストエイドについて
- 16:40 休憩
- 16:50 プログラム相互実施のオリエンテーション・準備
- 18:00 夕食
- 19:15 実習&講義：体験学習法の理解
同心円実習：話す、聞く 「私の好きな場所」「私の好きな時間」
伝える、引き出す 「私に影響を与えた〇〇」「なぜこの講座に参加したのか？」
講義：コンテンツとプロセス/体験するとはどういうことか/体験学習法について
- 20:15 終了・ログブック記入

●第4日目 6月19日(月)

- 8:00 朝食
- 9:30 プログラムの相互実施
葉っぱじゃんけん
同じものさがし：トランプのマークで
森の句会
- 12:00 フィードバックの読み合わせ、次回へ向けての改善
昼食（お弁当）
- 13:20 補いの講義
CONEの案内/プログラムの相互実施講評/体験学習の循環過程/ジョハリの窓/Q&A
- 14:00 講座全体のふりかえりとわかちあい
- 14:30 クロージング
- 14:45 終了

第1部 「森と人と出会

～1日目～

開講式／オリエンテーション

梅雨の晴れ間に清里に集まったNEC森の人づくり講座の受講生23名。昨年の冬講座に参加した13名（11期生）と新規学生10名（12期生）が顔を合わせ、まだ緊張感のただよう中、ハリスホール研修室で開講式が始まった。

NEC（日本電気株式会社）の山辺さんからは「これからはますますインタープリターの活躍する場がふえていくでしょう。がんばってたくさん吸収してください。」とお言葉をいただいた。

体験：講座のウォーミングアップ

まずは緊張した心と体をほぐす時間。お題にそって仲間を探す活動で、みんながどこから来ているのかなど基本的なことを知り合った。そしてそれぞれ持ったひらがなカードを組み合わせて言葉を作る活動では「森に関係する言葉」というお題にそって「つゆ」「にんげん」などの言葉を全員で作っていくうちに緊張していた気持ちも少しずつほぐれていった。

体験：環境教育プログラムの体験

ここからは森に入っていった環境教育プログラム体験。レンジャーの全身を使つての「間違い探し」で、よく見る練習をしたあと、グループにわかれて森から「赤いもの」や「本日のスペシャル」を探し出す。梅雨の森からは、キノコや虫たちの巣、ふわふわの葉っぱなどいろいろなものが見つかり、最後には白い枠を森に置いてきて森全体を美術館に見立てる。森にはいろいろな発想で作られたたくさんの美術作品があらわれた。ただ見えているということと、きちんと見るといふことの違いを感じた。

講義：環境教育概論（12期生）

12期生だけになって環境教育とは何なのかを考える時間。全員で自分が思う環境教育の活動をあげてみることで環境教育の扱う領域を知った。そして、「子どもに環境問題って何で起こるの？と聞かれたら何と答えるか」という質問に「少しだけ、自分だけならいいという考えが積み重なった結果」「本来あるべきものがあるべき場所がない状態」など様々な考え方ができた。改めて環境教育という言葉の意味を考えさせられる時間だった。

実習：プログラム準備①（11期生）

前回12月にも実施したプログラムを再度実施する為の準備の時間。前回実施した際のことを思い出しつつ構成を練り直す。グループ内だけの話し合いにとどまらず、全体で話し合つてひとつの流れを創つていこうとしていた。想いを「伝える」ためにはどうするのか。再会した仲間たちが共に頭を悩ませる時間であった。





目的の共有化

この講座における自分自身のねらいと、自分を表す3つのキーワードを提示することによって一人一分で自己紹介を行った。出会いをねらいにしている人、自分の成長をねらいにしている人、23人23色のねらいがあった。キーワードでは「笑う」や「写真」「野鳥」など、自分の大切にしていることから趣味や好きなことまでさまざまな言葉が出てきた。顔なじみの11期生の新たな面も、初めて会う12期生のことも共有し合えた。

～2日目～

体験：早朝ガイドウォーク（12期生）

12期生だけの早朝ガイドウォーク。昨日までは少し緊張気味だったみんなもだんだんと会話が弾むようになってきた。うす曇りの空の下、モミの香りを嗅いだり、ササ笛を吹いたりしながら朝の気持ちのいい空気に包まれた。



実習：プログラム準備②（11期生）

11期生は本日のプログラム実施準備の大詰めの日。一晩自分なりに練ってきたことを出し合い、話し合った。そして、必要なものを揃えたり、何度もリハーサルを行ったり。半年間貯めていた思いを出し、共有しあった。より良いものを創るために、伝えるために・・・

環境教育プログラムの実施&体験

11期生によるプログラム実施。12期生はそれらのプログラムを体験する。擬音語を探すプログラム、色を探すプログラム、そしてそれぞれの感じたことを文章にするプログラム。11期生の伝えたい思いが形になった瞬間であった。実施した側も体験した側も多くのことを感じられたようだ。みんなそれぞれに感性が違っていること、新鮮な気持ちを忘れかけていたこと、そして感動するという気持ちを味わえたこと。この時間を共有できたことが更なるみんなの成長の糧となるであろう。



講義：インタープリテーション概論

「プログラム実施を通して参加者にどんな気持ちになってほしいか」というテーマに沿ってそれぞれ思うことを書き出し、数人で共有し合う。すでにプログラム実施を行ったみんなも、これから体験するみんなもそれぞれに思いを持っていて、その思いこそがインタープリターにとって必要なこと。自然と人、人と人をつなぐこと、「見えるもの」から「見えないもの」を伝えることがインタープリターの役割であることなどを学んだ。



第2部 「森を身体で考え」



実習：森林管理作業①

「森を身体で考える」第1弾として、実際に生きている木を伐り倒す作業を行った。3つのグループに別れ、どの木を伐るかという選定の話し合いから始まった。周りの木の生長にとって犠牲になっても良さそうな木を選び、なるべく他の植物を傷付けずに済むように倒す方向を選ぶなど一生懸命考えて、そして命をいただくということを感じながら一生懸命伐り倒した。40歳ほどの木の切り口はみずみずしくいい香りがして、木も生きていることを感じた。伐った後には開けた空が見えた。



講義：ヤマネの部屋

ヤマネミュージアム館長、湊先生による講義。湊先生とヤマネとの出会いの話から、学校の先生だった頃の話、現在の取り組みとしてアニマルパスウェイ（小動物の移動のために道にかけられた橋）についての話などを聞いた。湊先生の生き様に触れ、自分の生き方と重ね合わせたり比べたり・・・「かっこいい！」との声が聞かれたほど、多くの受講生が感銘を受けた時間であった。



～3日目～

実習：森林管理作業②

昨日までもっていた天気は崩れ、雨模様。みんなカラフルなカッパに身を包んで、昨日伐ってそのままにしておいた木を選び出し、実際に役に立つものを作る作業を行った。2メートルほどに伐った材を、一輪車を使い、重い部分は2人がかりで運び出した。生きていた木の重さを実感できた。



運び出した材は、焚き火場の囲いに使われ、夜間にネズミを観察できる場にもなった。「またいつかここに来たい」と、自分たちの作ったものに達成感と喜びを感じていた。



フリップボード・ディスカッション&11期生クロージング

この時間を持って11期生とはお別れ。

「今の気持ちを一言で」と「一番印象に残っていること」を各自書き出し、4、5人で共有した。その後、11期生から「今大切にしたい気持ち」や「12期生に伝えたいこと」を発表しあった。「そのまま」「伝える」「続けること」など、11期生からの熱いメッセージを12期生はしっかりと受け取ったようであった。そして最後に、12月に11期生が残した「つながり冊子」を12期生に授与した。最初はぎこちなかった11期生と12期生も、別れを惜しむかのように話し続けた。森の人のつながりが確かにここにあった。



第3部 「未来を見ずえる」



講義：安全対策

23人から10人になった研修室は何だか寂しく、しかしこれからの新たなはじまりに期待をもっているかのような雰囲気であった。

自然体験につきものともいえる危険を最小限に抑えるための対策を学ぶ時間。怪我の現状を知り、絵を見て危険箇所を予想する危険予知トレーニングを行った。



実習：プログラム相互実施オリエンテーション&準備

体験する立場から実施する立場へと変わる12期生。3つのグループに分かれてプログラムの説明を受け、後はグループごとに準備に取りかかった。伝えたい想いは何なのか、熱い意見を出し合っていて考えた。



講義&実習：体験学習の理解

2人組で「話す」と「聞く」ことを意識した実習を行った。どういった話し方、聞き方がいいのか、距離感はどうかなど、体験を通して学んだ。その後、体験をやりっぱなしにしないことの大切さや、体験から発見したことには実感が伴うことなど、体験学習法の大切さが伝えられた。



～4日目～

受講生に期待すること

キープ協会の川嶋から、受講生の今後に期待したいことが話された。自分たちの世代で何ができるのか考え、いろいろな可能性に挑戦してほしい、そして今後どのような形で環境教育に関わっていきたいか考えてほしいと・・・



実習：プログラム相互実施&相互評価

昨日からの準備を形にする時。みんなの気持ちが昨日の雨をふき飛ばしたかのような夏を思わせる日差しの中、お互いのおもいがつまったプログラム実施が行われた。

どのグループもねらいを伝えるための工夫が見られた。まとめのプログラムでは4日間のみんなの思いがぎゅっとつまった詩が集まった。実施後の相互評価においても、互いにあたたかく且つ厳しい意見が交わされていた。それだけみんなの間の壁がなくなり、仲間として高めあっていることが感じられた。





講義：補いの講義

互いに実施したプログラムのフィードバック・シートを読み合わせ、良い点、改善点をふりかえった。やり終わったことで緊張から解放された、笑顔と達成感の中、冷静にふりかえりを行っていた。そして、体験学習には「指摘や分析があった上で次の体験につながる」という循環過程があること、インタープリターは日常においてもできるということを学んだ。4日間の最後の講義、みんなのまなざしは真剣だった。



実習：ふりかえりとわかちあい

4日間の最後の時間。講座を振り返るスライドショーを見た後、ふりかえりシートを各自で記入した。印象に残っていること、書き留めておきたいことや言葉などを、この4日間を思い出しながら書き込んでいった。その後2、3人で発表しあった後、全体で輪になって発表した。溢れる気持ちや感動を抑えきれず、泣きながら想いを語っていた。この気持ちを忘れずに、また一回り大きくなったみんなとの再会を約束した。



最後に色紙のプレゼントがあった。「つながりをありがとう」の頭文字から一人ひとりの想いがつづられていた。こうして11期生から12期生へと、そしてまた次の受講生へとみんなの想いが伝わって、つながりの輪が大きくなっていく。そして、またどこかでみんなと会える日がきっとやってくる。

ログブック

日々感じたことを自分の言葉で書きとめていく。誰でも閲覧可能にしておくことで互いの想いを共有できる。4日間の大切な思い出となった。



つながりをありがとう

キープ・フォレスターズスクール Bコース講座が終了したときの受講生の感想です。

☆受講生の声

- ・環境教育活動と一口で言っても様々なアプローチの仕方があることがわかった。学んだことは「ふり返り」の重要さである。何事も「やりっぱなし」ではいけないということ。
- ・苦手なものや嫌いなもの、普通のものや好きなものまでも、心に少し余裕をもつことで、それに接した時、くすぐったかったり、共感したり、笑えたり、涙が出たりする。そんな人間らしい気持ちを忘れずに、これからは真剣に環境教育に関わっていきたい。
- ・人と自然が愛し合うような関係の構築を促し、自然を通じて人と人を結ぶお手伝いをする事です。その具体的な方法は、「メッセージを聞くこと、共有すること。」です。
- ・学校ビオトープなどを通して子どもに環境教育をし、地域との結びつきを作っていけることがとても楽しそうだと思います。
- ・「自然と人」だけではなく、その自然を使って「人と人」を結ぶような環境教育をしていきたいと本当に強く感じました。
- ・大学院で学んだ知識も活かして企業と人とを繋げたり、自然と企業を繋げたり、森人と都会人を繋げたりするコーディネートする役割を担っていき「森人の繋がり」を更に広めていきたいと考えています。
- ・今回私は新たな価値観を発見しましたが、この講座を受けたメンバーそれぞれに新たな学びがあったのです。環境教育は、そんな自由な個性を生かせる教育なんだと思います。
- ・環境教育というものはぼんやりとしたものでしかなかったかが、講座を体験した今、後期の日程は残っているものの、少しははっきりとしたものになったし、同じ分野に興味のある人たちと交流していくなかで自分の視野も広がった。
- ・この経験を生かし、いつか記者として社会に自然に触れることの大切さを訴えていきたいと思う。
- ・人に、自然に、自然体で向き合う、という事を、学べたと思う。